

Tokyo Motor Show

No.20

東京モーターショーニュース

2003年10月30日発行

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本自動車工業会

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本自動車工業会

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本自動車工業会

TEL: 03-213-3001 FAX: 03-213-3756 WEB: <http://www.jama.or.jp>

JAMA



昨日の雨がうそのように29日(水)はカラッとした秋晴れに恵まれた。来場者の出足は好調。西1、北1ゲートには開門前から若者たちの列ができていた。正午にかけて好天に誘われ若いカップルや子供連れ家族の姿も増えていた。今回の展示車には全体に新しさが感じられるとのマスコミ報道から、来場者も各ブースのクルマをいつもより時間をかけ丹念に見学している姿がみられた。

“ときめき”のクルマで 魅力あるデザインを演出



三菱自動車

「クルマは、あなたを、ときめかせていますか？」
——。そう語りかけているのが三菱自動車工業のブース。「Passion=次世代を切り開く情熱、Performance=モータースポーツで培われた先端技術、Perfection=繊細な日本のモノ作りの精神」と、3つの「P」をキーワードに、人とクルマの新しいときめきの関係を魅力あるデザインのコンセプトカーなどを通じて提案している。

東ホールの三菱自動車のブースでは、4つのコンセプトカーをはじめ、ラリーカーなど19台を展示。車両はすべてコーポレートカラーの「レッド&シルバー」の2色で統一し、「他社のブースとの差別化を狙った」と(説明員)という。

なかでも最も人気を呼んでいるのが、中央通路側のモータースポーツコーナーに展示している「ランサーエボリューションWRC2」と「パジェロエボリューション」の2台のラリーカー。三菱では2004年からWRC(世界ラリー選手権)に復帰するが、ランサーは03年のWRCテスト参戦車。パジェロは04年開催のダカールラリーの参戦仕様車だ。連日、デジカメなどを持ったモータースポーツファンたちで大賑わいだ。

デザイン重視の4台のコンセプトカーを披露

ブース中央には、シルバーメタリック調の市販車に囲まれるようにして4台のコンセプトカーを展示。このうち、スモールカーの「i」(アイ)とアルミニウムボディのレトロ感あふれる「SE-RO」(セロ)は、三菱が開発中のアンダーフロア・ミッドシップレイアウトの軽自動車用シャーシーを使用したコンセプトモデル。新型シャーシーは現在のあらゆる軽モデルをしのぐ2560mmのロングホイールベースを実現しており、この2台はいずれもその特性を生かしたパッケージングを持っている。

このほか、“紅一点”真っ赤なボディカラーが眩しいハイパワーエンジンを搭載した「Tarmac Spyder」(ターマックスパイダー)、カジュアルな4シーター「CZ2 Cabriolet」(CZ2カブリオレ)の2台のオープンモデルなど注目度が高い。

技術面では提携先、ダイムラー・クライスラーの燃料電池システムを使用した燃料電池車「FCV」を参考出品しているほか、低公害と省燃費性能を実現する次世代エンジン「GDI」コーナーも設けられている。



高い運動性能を誇るスポーツモデルの「Tarmac Spyder」



女性をターゲットにした「CZ2 Cabriolet」



スモールカーの「i」(写真上)とアルミニウムボディのレトロ感あふれる「SE-RO」



ダイムラー・クライスラーの燃料電池システムを使用した燃料電池車「FCV」

TOPICS

南仏のリゾート気分で憩う SmoCar 2

スポンサーシップ・プログラム
日本たばこ産業(JT)

とかくスモーカーが敬遠されるなかで、「愛するたばこをスマートに」というスペースが、フェスティバルパーク前の西休憩ゾーンにやってきた「SmoCar 2」。

快適な喫煙はもちろん、「1960年代、南フランスへのパカンスに向かうバス」をイメージしたフレンチブルー



と淡いイエローで包まれた大型トラックをベースにした特別ボディは楽しめる。カウンターバー・スタイルのテーブルに肘を寄せ、たばこをくゆらせながらパノラマミミックな風景を楽しむのが、今年の東京モーターショーのSmokerスタイルだ。キュートなスモーカー・ガールズがもてなしてくれる。

TOPICS

モーターショーの顔 GRAN TOURISMO 4



いまや東京モーターショーの“顔”になった感のあるグランツーリスモ。迫力満点のドライビング シミュレーターで、平日・週末を問わず朝から行列ができ、アツと言う間に黒山の人だかりができるほどの人気コーナー。中央モール東寄りであり、正式名称は「グランツーリスモ4体験試乗アリーナ」。スポンサーシップ・プログラムに参加したソニー・コンピュータエンタテインメントの提供で、25台のプレイステーション2と小型電動6軸のGTシミュレーターが設置されている。会場ではラリーコースなど5コースのソフトを使っている。

ブランド別に特徴持たせ意欲的な展示

外国車展示ブース



Mercedes-Benz



最新リサーチカー筆頭に魅力のラインナップ メルセデス・ベンツ／マイバッハ

メルセデス・ベンツの展示ブースは、前回（第35回）に続いて多層構造。2階は「Aクラス」をベースにした参考出品の燃料電池自動車「F-Cell」を展示して環境への対応をアピールするなど、各フロアはテーマごとに分けられているが、各階・各コーナーには来場者の目を引くモデルがひしめいている。

ブース1階のセンター位置に参考出品の「F500 Mind」を据え、正面中央にスーパースポーツ「SLRマクラーレン」、日本市場へ投入されたMPV「ピアノ」と「バネオ」が並べられている。市販モデルやメルセデスAMGの歴史の中でも最強の「ベンツCL65AMG」を含めて展示台数は17台。さらに、最高級乗用車として伝説を蘇らせた「マイバッハ62」が加わり、“メルセデスファン”を惹きつけている。

ショーカー「F500 Mind」は、最新のリサーチカーとして、メルセデス・ベンツが考えるこれからの自動車テクノロジーを提案、いわば「走る実験室」。赤外線レーザーヘッドライトを備えたナイトビジョンシステムをはじめ、2ウェイドア、マルチビジョンシステムなど、実用化への道を切り開く革新的なモデルである。

来場者のもっとも注目を集めている「SLRマクラーレン」。第33回東京モーターショーに出展された「ビジョンSLC」をベースに、マクラーレンレーシングテクノロジーを注入して登場した21世紀のスポーツカーである。新開発スーパーチャージャー付きV8エンジンは626馬力を発揮、メルセデス・ベンツの最高峰のスポーツカーとして君臨する。



F1テクノロジーを注入して登場した「SLRマクラーレン」



コンパクトサイズながら広い空間を確保した「バネオ」



独特なデザインと技術革新・品質改善姿勢を象徴 クライスラー／ジープ

クライスラーグループが東京モーターショーで披露するのは、独特なデザインに加え、技術革新と品質改善に取り組む姿勢。それを象徴するモデルが、日本市場に近々投入される予定の「クライスラー・クロスファイア」やコンセプトカー「クライスラー・300C ツーリング」「ジープ・トレオ」である。

このうち、「クライスラー・300C ツーリング」は、アメリカ車のイメージを現代的なデザインでまとめたフルサイズ・ステーションワゴン。再び、新開発のFRを採用し、大排気量のV8・5.7リッターエンジンを搭載している。往年のクライスラーを髣髴とさせるラグジュアリーなツーリングワゴンで、ヨーロッパ市場での販売も予定されている。

また、日本初お目見えの「クライスラー・クロスファイア」は、コンセプトカーを市販モデルに昇華させた2シートのスペシャリティクーペ。ジープのコンセプトカー「トレオ」は、若いエントリー層を意識したモデルである。



アメリカ車のイメージを現代的に生かす「クライスラー・300C ツーリング」



ファッショナブルコンパクトが女性に人気 スマート

キュートなスタイルで若い女性にも人気の「スマート」から、第2世代のモデルが登場、来場者の目を引いている。

ダイムラー・クライスラーと提携関係にある三菱自動車の「コルト」とプラットフォームを共有する「forfour」は全長3.752mとコンパクトなボディながら、スポーティーな走りが楽しめるスマート流の5ドア・4シーターモデル。カラーリングも、スマートのアイデンティティであるツートンを採用したファッショナブルコンパクトだ。



エンジンバリエーションの豊富な「forfour」

新時代環境宣言 ～ぼくらの未来～



◆講師

宮崎 緑氏 (千葉商科大学政策情報学部助教授)
館内 端氏 (日本EVクラブ代表、自動車評論家)

◆発表

千葉市立打瀬小学校4年生児童(106名)

シンポジウムでは、打瀬小学校児童が、次代を担う子供たちが現代の環境問題に向き合わなければならないという視点から、乗る人数に合わせたサイズになる「組み立てられる車」や「折りたたみ式の車」、車体の前後に強力なN極磁石を装備して衝突を防ぐ「軽くて安全な車」など、児童たちの自由な発想で考えた環境にやさしい車を絵にしたアイデアを10グループごとに発表。会場内ではひとつひとつの発表にうなずいたり、笑みが漏れたりという光景が見られた。

このあと、総合司会の宮崎氏がそれぞれの発表内容に質問したり、

感想やコメントを述べた。

館内氏と宮崎氏によるトークセッションでは、館内氏が自ら参加している電気自動車の普及活動の紹介を含めて、環境にやさしいライフスタイルや大人たちの環境への取り組みなどをわかりやすく紹介。児童たちの発表も評価しながら、「環境問題への取り組みは、ひとりひとりができることから少しずつでも」と語り、「フレッシュな発想で、皆さんも大人になったらクリーンな車を作ってもらいたい」と語った。



館内 端氏

高齢者のアクティブライフをささえる自動車



◆基調講演

【アクティブシニアのためのカーライフ】

徳大寺有恒氏 (自動車評論家)

◆講師

【高齢者の生活と自動車】

溝端光雄氏 (東京都老人総合研究所介護・生活基盤グループ副参事)

【高齢者の運転特性】

平松金雄氏 (日本自動車研究所首席研究員)

【将来のシニア女性のライフスタイルとクルマ】

原加代子氏 (日産自動車車両交通研究所主任研究員)

【人に優しい車創りのアプローチ】

多田哲哉氏 (トヨタ自動車第二トヨタセンター製品企画主査)

◆総合司会 鎌田実氏 (東京大学大学院工学系研究科教授)

高齢者と車の関わりについて「自分の身体の衰えを理解して、くるまを楽しく使ってください」(徳大寺氏)と高齢者にエール。「シルバーライフに車は有益だが、能力の衰えた方々に周りの人の思いやりが必要」(平松氏)と、周囲の心遣いを求めた。メーカーからは、「シニア女性に車は欠かせない。女性のライフスタイルにあう車造りをしていきたい」(原氏)と、女性の立場から新しい発想を披露し、また商品化されたユニバーサルデザインの車について「使い易さ考えた子供から高齢者までアクティブな生活を演出する、人に優しい車造り」(多田氏)とメーカーから開発の狙いを説明した。



徳大寺有恒氏

TOPICS

プロの妙技に感嘆の声

トライアルバイク

前の車輪を上げて走る「ウィリー」、後ろの車輪を上げる「ジャックナイフ」。西休憩ゾーンに隣接するフェスティバルパークで行われたモータースポーツ「トライアル」のデモンストレーション。大勢の人がプロの技に感嘆の声、そして拍手。

妙技を見せてくれたのは小林直樹さんと本多元治さん。「シーソー」「クランク」という難しい走りをいとも簡単にやっけてのける。その合間に交通安全を訴える二人。最後にセクションカーの屋根を下ろしてつくった高さ4mのスロープを屋根まで登ってやんやの喝采。このトライアルバイクとの併催の形で、来場者が自分宛に交通安全宣言を葉書に書いて投函する交通安全ポスト、来場者の投票でグランプリを決める交通安全CMコンテストも行われている。いずれも31日まで。



今日のイベント(予定)

★ シンポジウム

10:30~17:00 エコと快適性を高次元で拓く 42Vパワーネット (国際会議場2F・201号室)

13:00~16:00 アジア各国の環境問題とその取り組み (国際会議場2F・国際会議室)

★ Bay FM

11:15~11:45 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

★ フィエスタ・マリスコス

13:00~13:30

15:00~15:30 } フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

17:30~18:00

★ トライアル2輪デモ

12:00~13:00

15:45~16:45 } フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

★ 千葉県警音楽隊

13:45~14:25 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

10月29日の入場者数 **87,100人**

入場者数合計 **561,700人**

One to Oneマーケティングについて
興味をお持ちの企業の皆様へ。

▼ オンデマンド印刷は「個」に向けた高度な戦略を可能にします。詳しくは…

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

Color DocuTech 60

機材協力：富士ゼロックス株式会社

用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX